



県保衛連



県連HP

第27号

発行日 令和6年3月31日
発行者 富山県環境保健衛生連合会 会長 五十嵐 務

題字 五十嵐 務

第68回富山県環境保健衛生大会



五十嵐会長挨拶



県知事表彰



会長表彰



会長感謝状



小中学生 ポスター・壁新聞表彰

このたびの能登半島地震で犠牲となられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地域のみなさまの一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

第68回富山県環境保健衛生大会開く

「環境にやさしく 健康は生活習慣から」をスローガンに富山県環境保健衛生大会が、令和5年11月11日(土)午後1時30分より魚津市の新川文化ホールで開催された。初めに五十嵐務会長の開会の挨拶(別掲)があった。続いて富山県知事(知事代理・有賀玲子厚生部長)の挨拶があり、次に地元開催市である村椿晃魚津市長から歓迎の挨拶があった。

表彰式では、県知事表彰(厚生部門功労)として、永年環境保健衛生に尽力された個人4氏と1団体の表彰があった。

次いで環境保健衛生連合会長表彰として、個人の部21名、団体の部で5団体の表彰があった。また永年に亘り連合会の役員を務められた2氏に感謝状が贈られた。

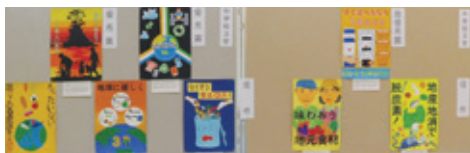
小中学生から応募のあった「地球温暖化防止活動に関する壁新聞・ポスター」の部では、壁新聞の部で9名の小学生、ポスターの部で15名の小学生の表彰があった。

表彰式の最後に受賞者を代表して魚津市の窪田幸二氏の謝辞があった。

次に来賓から山本徹富山県議会議長、久保田満宏魚津市議会議長の祝辞があった。

休憩をはさんで、「笑いヨガ」で心も身体も健やかに〜笑って楽しむ健康習慣〜と題して、富山医療生活協同組合在宅福祉総合センターさきずな施設長・理学療法士 染谷明子氏から笑いの講演があった。

続いて「工業高校生が学び、創り、伝える環境保全活動」地域資源を活用した新しい環境教育材料の提案〜と題して富山県立魚津工業高等学校から活動発表があった。



地球温暖化防止活動に関する壁新聞・ポスター



村椿魚津市長



有賀厚生部長

次に大会宣言案が魚津市環境保健衛生協会窪田美子副会長から読み上げ提案があり、満場一致で採択された。終わりに長勢静雄魚津市環境保健衛生協会会長から閉会の挨拶があり散会した。

なお、次年度の開催は氷見市となった。

五十嵐会長挨拶要旨

県連合会では、平成30年より食品ロスの削減について重点事項として取り組んでおります。毎月30日と15日に冷蔵庫等をチェックして食材を使いきる、宴会の最初30分と終わりの15分は、食事を楽しまつ時間を設定し料理を食べる「3015運動」の推進やフードドライブの推進などに取り組んで参りました。

さらに、今年度、新しく「てまえどり」の普及推進を掲げ、取り組むことにしました。「てまえどり」は、昨年度の流行語大賞のベスト10にも入っておりますが、まだまだ馴染みがあるとは言えません。スーパーなどの買い物時に「すぐに食べるなら手前から」とる「てまえどり」を、県民みんなでも取り組むことで、食品ロス削減に大きく貢献すると思われまふ。是非、普及推進をお願いしたいと思います。

保健衛生の面では、生活習慣病の予防、健康寿命の延伸を掲げております。野菜の摂取量の目標は一日350g以上とされていますが、富山県では、約100g一皿分不足しているそうです。県民みんな、あと一皿野菜をとる運動を一層進め、健康寿命の延伸を進めて参りたいと思ひます。

今日の大会を契機に日本一の健康づくり、日本一の環境県づくりをしっかりと皆さんとともに取り組んでいきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

「講演」 「笑いヨガ」で心も身体も健やかに

富山医療生活協同組合在宅福祉総合センターさきずな

施設長・理学療法士 染谷明子氏

染谷氏は、日本笑いヨガ協会講師でもあり、医療・教育など幅広い分野で活躍中です。始めに基本動作である手拍子とかげ声と深呼吸の練習をして、身体と心の準備を整えてから、いよいよ主運動の始まりです。

お隣さんとのあいさつに始まり、次々と繰り返される

言葉による笑いにストレッチやかけ声を組み合わせるパターンの「笑いヨガ」を体験した。気がつくと、採られるまま10数種類ものプログラムをこなしており、お互いの笑いが会場いっぱい伝染して大いに盛り上がった。

プログラムは、理学療法士として伝えたいことや日常の感情などが取りあげられており、笑いながら健康で快適な生活習慣がつくられていくような仕掛けであった。

ひたすら笑い、心が通じ合う喜びを味わい、気分爽快へと導かれて、幸せな気分になった。



「活動発表」 「工業高校生が学び、創り、伝える環境保全活動」

富山県立魚津工業高等学校

地域資源から排出される食品廃棄物を利用した機能性材料の開発

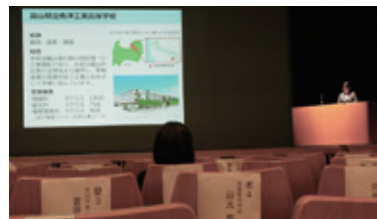
魚津ではバイ貝を全国的にPRしているが、貝殻は利用されていない。そこに着目し、貝殻を活用して酸化チタン複合微粒子を調整し、有害物質を分解するだけでなく、漁業用の器具に海洋生物が付着しにくくすることを目的として研究した結果が発表された。

研究成果は学会で評価されて、一般社団法人日本環境化学会の第17回高校環境化学賞で奨励賞を受賞している。

2. 環境教育推進委員会の環境保全活動

当校では環境講演会を開催し、その中で生徒の環境保全活動の紹介も行っている。また、地域の方にも参加してもらい地域での活動に役立ててもらおう機会としている。

令和5年3月、生徒会が中心となって回収した海洋ごみを情報環境科や環境科学部の生徒によって成分分析した活動が評価され、第28回コカ・コーラ環境教育賞企画・研究推進部門で優秀賞を受賞した。



表彰

○第68回富山県環境保健衛生大会

日時 令和5年11月11日(土)
会場 魚津市新川文化ホール大ホール

富山県知事表彰 (厚生部門功労)

個人 田口 俊雄 富山県環境保健衛生連合会理事
窪田 幸二 魚津市環境保健衛生協会理事
得永 榮治 小矢部市環境保健衛生協会顧問
広嶋 寿雄 立山町環境保健衛生協会会長
団体 金山新桜ヶ丘町内会 (富山県)

県連会長感謝状

前理事 山口 邦夫 富山県環境保健衛生連合会
元常任理事 平井 丈夫 富山県環境保健衛生連合会
県連会長表彰

個人

内上 衛 (富山県) 梶澤 孝信 (水見市)
浅野 覚 (富山県) 浜野 敏博 (水見市)
出田 繁雄 (富山県) 越田 令子 (水見市)
黒部 明 (富山県) 藤井 活枝 (砺波市)
大坂 龍男 (高岡市) 上田 幹子 (砺波市)
向井 武司 (高岡市) 井頭いく井 (南砺市)
中谷 哲也 (高岡市) 島中 昌代 (南砺市)
館 勉 (魚津市) 中山 和子 (南砺市)
萩原 達 (舟橋村) 藤盛 明子 (南砺市)
堀 達 (射水市) 清見小夜子 (小矢部市)
藤岡 宏 (射水市)

団体

福岡校下環境保健衛生協議会 (高岡市)
水見市健康づくりボランティア連絡協議会加納地区 (水見市)
福野北部花緑愛好会 (南砺市)
安室農地環境組合 (南砺市)
高瀬西延寿会 (南砺市)

○全国大会表彰

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰

第67回生活と環境全国大会
日時 令和5年10月19日(木)
会場 北九州市北九州国際会議場
生活環境改善功労者 井上 文男 (富山県)
林原 克巳 (射水市)
大沼 保之 (小矢部市)

三世代環境保健衛生活動モデル事業

小矢部市「藪波川の調査会」活動報告

実施団体名 小矢部市立藪波公民館
事業の目的・ねらい

・ 地区内を流れる藪波川の水質調査を通じて、ホタルの里としての川の保全状況や当該地区の環境状況を把握する。
・ 三世代が協力して調査することにより、子供たちの地域の自然を大切にすることを育む。

事業の概要

藪波川の浅地・安養寺・戸久地内、3ヶ所の水質調査

事業の内容

日時 8月27日(日)、10月15日(日)
場所 藪波川の中流(浅地・安養寺地内)・上流(戸久地内)

事業主体

藪波公民館おやべつ子教室
藪波地区児童クラブ育成会長寿会
保健衛生協議会

参加者

大人22名、子供7名合計29名

参加者の感想

〈小学生〉

・ 川エビは毎回たくさんいるが、他の生き物は、去年や一昨年比べて、だんだんと少なくなってきた。川の水もにごってきているようで心配だ。

〈役員〉

・ 子供たちが、生き物のつかまえ方や水質調査の方法を互いに教え合っているようになってきた。

事業の成果・課題

・ 上流の戸久地内にはカワニナがいたが、中流の浅地、安養寺



地内には、あまり見つけられなかった。来年のホタルの出現がどうなるか心配である。

・ 子ども達の参加が少ないこと。地域の自然や生き物に興味をもって欲しい。

・ パックテストの結果から、水の状態を子どもにわかりやすく伝えるようにする必要がある。

舟橋村「どら焼き作り教室」活動報告

実施団体名 舟橋村食生活改善推進協議会

事業の目的・ねらい

・ 村の米と特産物を利用し、どら焼き作りをおこなう事で子供達の食育に対する知識の向上をはかる。

事業の概要

お米についての食育教育の実施の後、村の米、特産物(かぼちゃ)を使用して、「どら焼き作り教室」をおこなう。

事業の内容

日時 令和5年9月10日

場所 舟橋会館調理室

事業主体 舟橋村食生活改善推進協議会 放生若狭屋

参加者 10組の親子

内容

米ができるまでの農家の苦労話など、お米についての食育教室を舟橋村食生活改善推進協議会が実施した。その後、講師の放生若狭屋さんの指導で、米粉を使ったどら焼きの生地をホットプレートで焼き、舟橋村産のかぼちゃの餡と小豆餡のオリジナルどら焼きをおいしく食べた。

参加者の感想

・ 農家の苦労がわかった。
・ 米粉でできたどら焼きが美味しかった。
・ 残さずご飯を食べたい。

事業の成果・課題

参加者が食の大事さの理解が深まった。また、親子での体験なので、親子の交流が深まりよきイベントであった。



環境専門部会報告

入善沖洋上風力発電施設と 入善町のごみ処理視察研修会

日時 令和5年10月25日(水)

10時～16時

集合 入善まちなか交流施設
設うるおい館多目的
ホール

参加者 環境専門部会部員、会
報委員、県連役員15名

日程

① 開会挨拶 五十嵐 務会長

② 講話「入善町のごみ処理
とリサイクルについて」

③ 中央再生広場の見学(入善町には、6箇所の再生広場がある)



町の環境の取組みについて説明を受ける



中央再生広場を見学 1



中央再生広場を見学 2

④ 入善の風力発電事業について
入善マリソウインド合同会社にて

講師 株式会社ウエンティ・ジャパン
取締役統括部長 進藤 孝志 様



海岸にて洋上風力発電の説明



入善マリソウインド合同会社の事務所にて説明

入善洋上風力発電所は、入善町沖(横山海岸)678メートル～938メートルに設置され出力3千キロワット級の風車3基で、一般家庭約3600世帯分が9月中旬より稼働中

⑤ 新川広域圏事務組合ごみ処理施設「エコポルト」
(朝日町三枚橋)



事務組合にて説明



中央制御室にて、クレーンを操作しゴミを混ぜている

エコポルトでは、焼却で発生する熱エネルギーは、隣接の朝日町環境ふれあい施設らくちんの風呂や温水プール、冷暖房に利用している

⑥ 新川広域圏事務組合粗大ごみ処理施設黒部市宮沢
「宮沢清掃センター」と「新最終処分場」



事務組合にて説明



新最終処分場にて、屋根付の最新鋭の最終処分場で外部への埋立物の飛散や臭気による環境への悪影響が無く、雨や雪の天候にも影響されることも無いとの説明

ゴミ拾いはスポーツだ!

「スポGOMI in なんと」開催

10月9日(祝・月)、南砺市環境保健協議会が主催で「スポGOMI in なんと」が小矢部川公園で行われ、18チーム81人がゴミ拾いに汗を流しました。

「スポGOMI」は、3～5人が1チームとなり、決められたエリア内で1時間に拾ったごみの種類や量でポイントを競います(燃えるごみは100gで10ポイントなど)。日本発祥のエコなスポーツで、清掃活動に「スポーツの楽しさ」を融合させ、「楽しみながら社会貢献



活動」ができる」と世界からも注目を集めています。雨上がりの涼しい天候の中、各

チーム優勝を目指して小矢部川公園周辺のごみ拾いを行いました。18チームが1時間で拾ったごみの総量は約74kgで、ポイントの高かった上位3チームには賞状とSDGsグッズなどの記念品が渡されました。

最後に参加者全員で「ごみ拾いはスポーツだ!」のかけ声とともに記念撮影を行いました。



編集後記

昨年末、2023年の世界平均気温は産業革命前と比べて14度上昇し、観測史上最も暑い年になったと発表。2015年の「パリ協定」で採択された「15度以内」に抑えるという世界目標が早くも崩れかけてきている。

世界各国で温室効果ガス削減に努力しているにもかかわらず、異常気象が頻発し、削減が追いつかない状況だ。2014～23の10年間に平均気温は1.2度上昇。地球がわずかに12度上昇するだけでこんなにも異常気象が頻発するとは驚きである。

このような状況のなか、EUでは温室効果ガス削減に逆行する動きが出てきた。イギリスではガソリン車販売禁止時期を5年延期。フランスでは石炭火力発電の再開。ドイツでは温室効果ガス削減目標を緩和...

これでは各国が策定した2030年の排出量削減目標には到底及ばない。途上国の模範となるべくEU諸国が地球環境保全より目先の経済を優先しようとしている。今後、異常気象による洪水や山火事が多発し、南太平洋の島々では海面上昇による水没の危機がさらに高まるだろう。

日本では古来、自然を神として崇め、敬い自然と共に暮らしてきた。そして幾多の自然災害も克服してきた。今こそEUに替わり、世界のリーダーとなって温暖化防止に最優先に取り組むべきだ。(広嶋記)